

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホームグリーントピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	令和3年7月1日	評価結果市町提出日	令和3年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2471300422-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 8月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた環境にあり、庭や畑を見ながら外気浴・散歩・お茶を楽しまれている。新型コロナウイルス感染予防対策で地域交流や併設の事業所との交流も、残念ながら中止となっている。グループホーム内で季節行事を催し、時には裏庭でガーデンパーティーを楽しんで頂いている。心穏やかに生活して頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で制約も多いが、それでも夏冬、晴天雨天にかかわらず毎日建物の外に出て、周辺の様子を見たり、事業所の畑を見回ったり、外気に触れるよう工夫がされており、利用者に変化を感じさせる。また、施設長はじめ全職員が事業所の運営や利用者の動向など細かいところまで目を配っており、利用者や家族にとって安心、安全な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して“笑顔”“挨拶”“言葉使い”を念頭に、実践に繋げている。グループホームのスローガンとして、思いやりのある介護を心掛け心穏やかに生活して頂ける場を作るを皆で心掛けている。	法人として多くの事業所を運営し、共通する理念を提示する他に、各事業所ごとに毎年職員で議論し独自のスローガンを掲げている。施設長は会議毎にあいさつで理念とスローガンにふれ、理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルス感染予防対策として地域住民や地域の子どもたちとの交流は出来ていない。	グループホーム内には地域交流ホールも併設され、地域の受入れ体制はあるが、コロナの影響で1年以上近隣住民やボランティアをはじめ介護実習生も受入れできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として、2ヶ月に1回書面で状況を報告している。	会議そのものが開催できず、市の指導により事業所の状況を詳細な文書にして会議参加者に通知している。参加者は、市職員・地域包括(交代参加)・まちの保健室・民生委員・利用者家族である。	コロナ禍で大変であろうが、昨年に続き自治会・老人会等参加者を広げるよう働きかけるとともに、通知した際は参加者の意見・感想・要望等を求める工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防対策で、運営推進会議の報告は書面で行っているが、必要に応じて連絡を取り、助言を頂いている。	会議等の集合の機会がなくなり、市行政・地域ケア会議等はメールやオンラインで交流したり、意見交換をしている。コロナワクチン接種は行政の手早い対応で、利用者・職員の全員が終了している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない事由がある時は、家族に「緊急やむを得ない事由による身体拘束に関する説明書」を使用して同意を頂いている。月1回身体拘束廃止推進委員会と身体拘束適正化委員会に取り組んでいる。	利用者1名が夜中と朝に単独行動するので、朝1時間だけ部屋に鍵をかけているが、他はすべて行動自由である。精神科医受診の利用者が増え9名中7名が通院しているが、毎月の身体拘束廃止推進委員会で意見交換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会の中で情報交換している。年間研修計画で高齢者虐待防止研修を実施し、意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には文章と共に十分な説明を行い、要望や意見・疑問点がないかを聞き、ご理解と納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防対策でリモート面会となっているが、家族の要望をお聞きしている。電話連絡の際にも要望がないかをお聞きしている。また、利用者とは日常会話の中で意見・要望をお聞きして業務に役立てている。	面会禁止であるが、来訪があればガラス越しに面会したり、自宅と居室のオンライン面会等を工夫している。家族の事情により交流が少ない場合もあるが、利用者と家族の交流は適宜になされている。家族からの意見や要望は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎやミーティング、日常会話の中で意見を聞きより良くする為、話し合っている。	職員会議を月1回、ミーティングを3カ月毎、日常連絡は引き継ぎノートの確認押印、朝夕の申し送り職員との意見交換をしている。他に身体拘束廃止推進委員会や衛生委員会を月1回して、意見があれば文書で幹部とやり取りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により給与に反映させている。また、安全衛生委員会を設置して就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防対策で、リモート研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換を通じて自らのケアの質の向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や入所申請には十分な話し合いに応じて、不安な事や要望をお聞きして良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に話し合いの場を設け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から要望や意見を聞き、複合型のメリットを活かして、広い知識と視野で他のサービスも含めて、優先すべき課題やサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	終日暮らしを共にしているので、信頼関係は出来ている。一人一人が心穏やかに生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会や電話連絡の時に、日々の様子をお伝えしている。何かあれば電話連絡をして、要望もお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防対策で、外出や面会・知人の来訪なども無くなっている。	コロナ禍の影響で外部との関わりが少なくなっている。ボランティア慰問も途切れがちながら、理髪は月1回来訪してもらっている。たまに知人が来るとガラス越し面会している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑しやすい場所、くつろぎやすい場所の環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はないが、相談に応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りやミーティング・連絡ノートの活用で情報を共有し、意向に沿った支援をしている。	職員は担当制であるが、誰もが利用者との会話からその気持を把握し、申し送り等で伝え共有している。意思表示できる人は5名ほどであるが、無口な人でもちょっとしたきっかけの会話から、その気持を理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人・家族・相談員より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察や毎日の申し送り、ミーティングなどで職員間の情報の共有を図っている。また、看護師との連携を図り、一人一人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人と家族に要望をお聞きして担当者の意見を聞いている。本人の状態や課題・ケアについて他の職員との話し合いの場を設けている。担当者の意見を参考に3ヶ月に1回モニタリングを実施している。	ミーティングの場でモニタリングとケアプラン(6カ月毎)を検討する。担当者は家族意見や利用者の日常を記録し、モニタリングにまとめる。ケアマネがそれらを集約して、皆で議論しながらプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックや食事・排泄を個人健康管理表に記録し、日常のようすも個人介護記録に記入している。情報の共有が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにあった支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防対策で、外部ボランティア・園芸福祉・地域市民センター行事の参加の支援は中止となっている。散髪は、継続して利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、嘱託医による訪問診療を受け、健康管理が出来ている。また、個々の状態に応じた専門医の受診も支援している。	協力医の訪問診療が毎月あるので、利用者全員が受診している。精神科医には月1回、眼科医や整形外科医等は必要に応じて職員が同行し通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告・相談をして健康管理と医療的な処置を行っている。また、看護師と連携を図り、24時間体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者情報を病院に持参して家族を交えて情報交換している。入院中は連絡を取り、経過を情報収集を行っている。退院時には、退院前カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を入所時に聞かせていただき、看取りの指針を定め職員・主治医・看護師・協力機関と連携を取りながら支援することとなっている。	昨年は1件の看取り対応をした。医学管理が必要な場合は協力医が対応し、病状により入院先の紹介をしている。看護が必要なら、法人内事業所の看護師が対応している。入退院時には、コロナのため電話でカンファレンスの意見交換をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を中心に事故の予防・対応を職員に周知している。急変時には、24時間体制で看護師と連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を日中想定と夜間想定で実施している。消防署と連携して助言を受けながら、訓練の充実を図っている。地域の非常時の福祉避難場所にもなっている。	年2回(3月、7月)に昼と夜を想定した総合的(通報・避難・消火等)防災訓練を行った。コロナのため消防署は参加せず、職員間で話しあって訓練した。周辺は平坦地で安全地帯であり、想定される事故は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の想いを大切に個々にあった言葉かけを心掛けている。その人の目線で話をする。おじいちゃんおばあちゃんではなくさん付けで呼んでいる。なれ合いになってはいけない。	トイレへの誘導・声掛けは、本人のそばで小さい声で促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や想いを傾聴して、自己決定が出来るように働きかけている。意思決定が困難な場合でも言葉かけはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の介護ではないので、一人一人の想いに添った支援をしている。(起床・就寝・散歩・外に出たいなど)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある衣類や小物を持参されてその人らしい整容が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きなどできることをしていただいている。手作りの誕生日ケーキやおやつ・料理を月1回は、楽しんで頂いている。テイクアウトでお寿司を楽しんでもらった。	主食は事業所で作り、副食は業者委託して同敷地内事業所の厨房で調理している。おやつ類も週2回は同じ業者に委託し、他の日は事業所が市販品を購入、月1回は所内で手作りするが、時には利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて、摂取しやすい形態で提供して、食事摂取量の記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後、口腔スポンジ・口腔ウェッティ・歯磨き・マウスウォッシュを使用したうがいなど、本人の状態に合った方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や行動・仕草の様子を観察して、誘導のタイミングを考慮して支援している。	排泄チェックは要介助者のみで、自立者3名はチェックしていない。便秘には協力医に相談し、下剤を処方してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で排便コントロールをして、毎日の乳製品の飲用や外気浴・体操で身体を動かす機会を作り働きかけをしている。また、オムツの方で2日に1回トイレ排泄の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮して看護師と連携を取り、入浴の支援をしている。家族や利用者の希望に応じて、機械浴も利用出来る。	利用者個々の体調に合わせ、週2回入浴している。夏は汗をかくので、入浴日以外にシャワー浴を利用している。冬は機械浴利用者もあるが、夏はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室のベッドや椅子、フロアのソファで好みの場所で休息できる環境に配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について薬情はファイルに綴じて、内服薬表や薬の効能をキッチンに貼っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や日常会話の中で楽しみを見出して、気分転換が図れるような生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日外気浴をしている。ジャガイモ掘りやトマトやキュウリの収穫もしている。新型コロナウイルス感染予防対策で、外出支援は中止となっているが、利用者の希望をお聞きして、テイクアウトを利用している。	コロナ禍の影響で遠出できないが、晴雨・寒暖の別なく毎日外に出て、外気浴している。時には近隣を散歩したり、ドライブに出て花見や紅葉狩りを車内からするようにしている。畑での収穫も利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金はお預かりしているが、支払いの困難な方はほぼ全量。週に1回の移動スーパーでは、欲しいものは手に取ることができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望の時は、家族が電話に出やすい時間帯にかけさせて頂いている。手紙やハガキを書かれる方は、一緒にポストに投函しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見ることが出来る。季節の花など季節感を取り入れる工夫をしている。	昼は皆が食堂兼ホールに出てきて、食事の他、それぞれがおしゃべりや手仕事の細工物づくりをしたり、適宜ソファでゆったりしている。共用空間の設備類は法人負担でよく整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置して、気の合った方たちがくつろげるようにしている。季節の花も飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、写真や好みの置物を飾られている。安全面も考慮して心地良い空間づくりに努めている。	居室内には法人配慮で、エアコン・ベッド・クローゼット・整理ダンス・洋服ダンス・テーブル・いす等が設置されている。布団とシーツはリースであるが、自宅から持込んでいる人もある。他に個人好みの物品が持込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で移動しやすく、安全に生活できる場となっている。自立した生活が出来るように、名札や目印を付けている。		